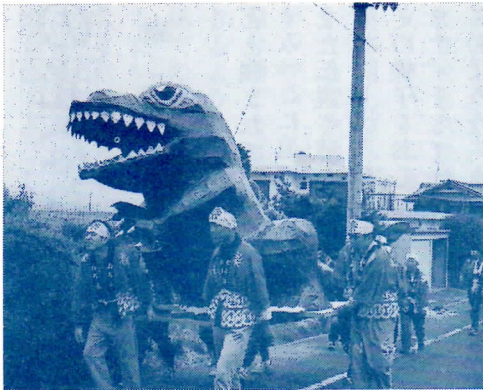




# お ち ほ

第19号 平成6年7月1日 発行 社会福祉法人 椎の木会 落穂寮 発行者 山下 陽一

## おみこひ競演 氏神祭



5月1日、この日は毎年恒例の氏神祭りの日です。何が恒例かと言うと、氏神祭りでは、寮のある東寺地区にある3施設がそろってお神輿を作り、白山神社までの道すがらお神輿を練り歩いていくのです。今年も落穂寮から3基、一麦寮から3基、近江学園からも3基のお神輿がそろいました。

白山神社への参詣を終えて、一麦寮のグラウンドへ戻り、お被露目をします。落穂寮からのお神輿はそれぞれ張りボテで作ったもので、アンパンマン&食パンマン(A棟)、ゴジラ(B棟)、セーラームーン(C棟)でした。氏神祭りの10日近く前から、それこそ「神輿を上げて」、毎晩、仕事が終わった後、深夜までかかって作り上げたものです。

お被露目では、毎年、力作を発表する一麦寮のお神輿(今年は大な吉永寮長でした)に、B棟のゴジラが火を吹いて攻撃するパフォーマンス(写真)や、近江学園のアンパンマンがゴジラに「アンパンチ」をするなど、楽しい光景が見られました。氏神祭りの後は、寮に戻り、落穂寮の44回目の開寮記念の式典をしました。



## この子らは世の光なり

寮長 山下陽一

五月十八日、大津市民ホールにおいて記念講演会が開かれました。『地球時代の滋賀の福祉』 糸賀一雄没後二十五年記念講演会

滋賀県のシンボルでもありセルスポイントとされるものは、美しく碧い琵琶湖と福祉の実績であるといわれ、全国的にも注目を集めています。

福祉の滋賀を語る時、敗戦後のあたらしい福祉の生みの親である糸賀一雄先生の存在を欠かすことはできません。先に触れた記念講演会は、先生が残された実践の思想を今日に問いなおす意義の深いものとして位置付けられると思います。

過去を顧みると、障害をかかえた人に対する態度は「ひと」のところがどれほど大切にされてきたかの「めじるし」のようなもので、その昔、弱い立場の人、いわれのない差別を受けていた人たちは、生産性の低い川原（かわらもの）な

どと蔑まれていた）や行政区画のすみっこに追いやられていました。また伝説や諺などに過去の扱いの姿が映し出されているものがあり、その様子をおしはかることができず。そして当時の世にあって、このような人たちに小さな規模ながら細々と手助けが行なわれていました。

敗戦後、糸賀先生は、近江学園の児童福祉事業の実践の中から、弱い立場の人たちに対する考え方を、そのときまでのものとガラリと正反対に転換されました。それを端的に表現されたのが「この子らを世の光に」でした。聖書の中に「我は世の光なり」というのがあるようですが、「この子らに・世の光を」と「この子らを・世の光に」の一字違いは、天と地を大転換したことに匹敵すると思うのです。ところが、わたしたちがここに達するには糸賀先生の登場まで待たねばならなかったのです。そして先生が亡くなられてから

二十五年が経過しました。その間、少しずついろいろなことがわかってきました。「文化」に相当する culture は「たがやす」という意味をもっていますが、人に対する捕え方も心の表土が少しずつ耕され、柔らかかさや温かさが深くなればなるほど芽ばえ、花や実が豊かに結ぼうというものです。明治維新にたとえるなら、「こころの文明開化」ともいべき内容をもっています。

わたしたちは糸賀先生にこころの開化を促されたわけですが、その後の開化はいったいどんなものになるのでしょうか。

冒頭のタイトル「この子らは世の光なり」というのは伊藤隆二先生の著作名です。障害のある子どもたちに触れることにより「世の光」を確信された様子が著わされています。その「あとがき」に糸賀先生について触れられている部分があるのですが、伊藤先生は「…糸賀氏（の）『この子ら』を『世の光に』高めてやる発想には傲慢（ごうまん）さがある…」と書かれているのです（伊藤先生、間違っているならごめんさい）。わたしはこれは大きく誤解されているのではないかと思います。

糸賀先生が最後の壇上で繰り返して「この子ら」を「世の光」に仕立て上げるのではなく、「光」に照らし出されるわたしたち自身の姿を問い直す、その姿勢が求められていることだっと思えます。

さて、伊藤先生の『この子らは世の光なり』は糸賀先生からの離陸ができていたわけではないらしいことがわかりましたが、それでは「世の光」の次はどのような思想により障害の問題をくぐることができるのでしょうか。人のこころはどこまで耕されていくのでしょうか。これを見極めないではおられません。

『この子らは世の光なり』

著者 伊藤隆二

出版 樹心社

定価 一五四五円





# 杉山から

千早正明

「杉山の家」が開所して四年目を迎えました。今日まで自然と一体になった理想郷作りをめざし、

多くの人たちの協力を得て、一步杉山の大地に足をつけて歩んできました。この試みが実り、成人施設開所の見通しがつかしました。本年度着任の私たちは、職員と施設生という縦の関係を改め、共にこの地で生活していくという観

## 杉山だより

### 杉山寮建設について

建設担当 橋本浩明

今年度、高島郡今津町杉山の地に知的障害をもった人たちのための成人更生施設が建設されることとなりました。生活面については、現在まで「落穂寮杉山の家」という形で、四年少しの間にグループホームの「杉山ホーム」の人たちとともに、たくさんの方々の後押し等に支えられてつくられてきました。このことを大切に、また、

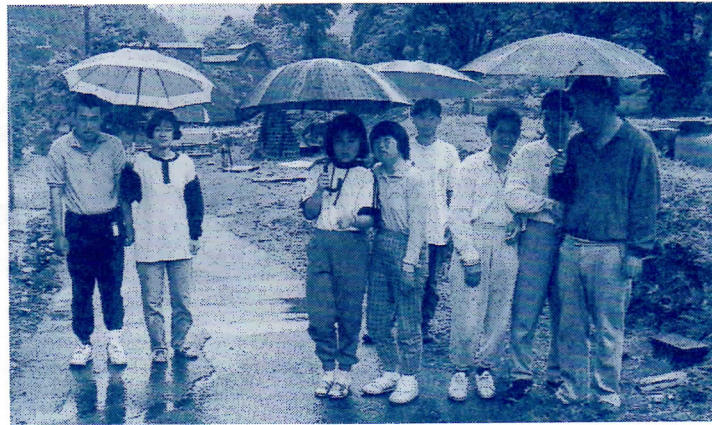
点に立つことを基本にしました。押し付けをしたり、先取をせずに、それぞれの人たちが自立の芽を伸ばしていきけるよう、援助していくことにしました。

自分のことはできるだけ自分でする。共同生活をするので、互いに尊重し合い、認め合っていく。そのために、それぞれの自立段階で興味を示す事柄を取り入れていきたいと思っております。今まで行なってきたシイタケ栽培

教訓として今後も活かされるようにと考えております。

新しい建物で来年度より生活を始めることになるわけですが、本来、人が寝たり、くつろいだりする空間が「住まい(建物)」となるものであって、建物によって生活が大きく左右されるものではないと考えていました。確かに住まいによって生活の成り立ちは随分変わることは違いないのですが、このことは住む人が建物を使ってゆく過程において変化してゆくこ

培も共同作業とし、採る人、等級別にする人、計る人、箱詰めする人等々としていきたいと思ってい



と同様だと思えます。杉山寮の場合、冬の雪のことを考えると、二階に居室があったほうがよいと考えられたわけです。土地も取得できる限度があり、平屋建てというわけにもいかず、ま

ます。戸外では畑づくり、除草作業等の環境整備。自然とのふれあいで野山へのハイイク。室内では陶芸などの創作活動や手芸。ただし、大きな幅での時間割は決めるものの、制約は極力しないようにしていきたいと思っております。冬季については検討中です。とにもかくにも、援助者の私たちの力量とチームワークによって、良くも悪くもなることを肝に銘じて、生活していきたいです。皆様のご指導ご協力をお願いいたします。



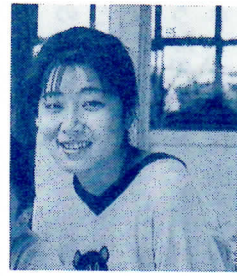
た、建設資金にも限度があります。もろもろの枠の中でのものをつくり、出来上がったあとは、住む人(生活する人)といっしょに上手に使ってゆけばと考えています。あくまでも人が建物を使ってゆくということです。

暮してゆくうちには、不備なところ、壊れるところが出てくるでしょうが、その都度、対応して、住みよい住居にしてゆきたいと考えておりますので、今後とも、ご支援ご協力のほどお願いいたします。



## スタート地点

B棟 世古尚美



私は小学生の頃から今までずっと施設で働きたいと、思い続けて来ました。ようやく、やっと、スタート地点にどり着く事が出来てワクワクする気持ちを押さえきれないでいます。今は、まだ始まったばかりで解らない事が多くてあたたふたしていますが、一日でも早

## よろしくおねがいます

平成6年度

## 新任職員紹介

く自分の仕事が出来る様になりた  
いと思っています。  
遠まわりして来たおかげで、過  
去に6年間程いろんな仕事をして  
きましたが、その中でも、ここ落  
穂寮で働く時間は、私の一生の  
宝の時間になりそうです。  
これからがんばります!! どう  
ぞよろしく願います。

## 自己紹介

A棟 中嶋純子



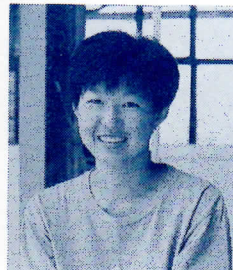
今年の春、短大を卒業し、念願  
の施設保母としてお世話になるこ  
とになりました、中嶋純子です。  
私が施設で働きたいなあと思っ  
たのは、うちのおばあちゃんが体  
が動けなくなり、母が世話をして  
いるのを見ていて、自分もおじい  
ちゃん、おばあちゃん、子どもた  
ちの世話をしたいと思ったからで  
す。

初めは、実習もせず、見学した  
時に接しただけで、何もかもが初

めてで、何をすればいいのだろう  
と少し不安でした。  
いろんな失敗や御迷惑をおかけ  
するのではないかと思います、  
どうぞよろしく願います。

## はじめまして

A棟 廣末真穂



こんにちは。廣末真穂と申しま  
す。珍しい名字ですか? ヒロス  
エです。大分県の一定地域には  
多い名字なんです。大分の田  
舎から京都へ短大に行く為に出  
来て、そのまま滋賀に居ついで  
しまう事になりました。  
落穂寮には短大の実習で初めて  
お世話になり、その後就職を考  
えたく出会った落穂の寮生さん  
と関わりたい! と思い、ここまで  
来る事ができました。最初の会  
いは偶然でしたが、落穂の職員  
になれるように、がんばろうと思  
っています。

今年春、短大を卒業し、念願  
の施設保母としてお世話になるこ  
とになりました、中嶋純子です。  
私が施設で働きたいなあと思っ  
たのは、うちのおばあちゃんが体  
が動けなくなり、母が世話をして  
いるのを見ていて、自分もおじい  
ちゃん、おばあちゃん、子どもた  
ちの世話をしたいと思ったからで  
す。

先生方には様々な御迷惑をおか  
けする事と思いますが、どうぞよ  
ろしく願います。

## 今の心境

C棟 杉本真紀



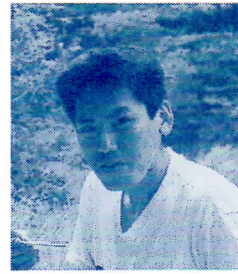
はじめまして、杉本真紀と言  
います。私は昨年の夏、この落穂寮  
へ実習に来ましたが、その時  
は、まさか就職することになると  
は思ってもいませんでした。実習  
中、食堂で寮生と食事をする事が  
一番の楽しみで、実習終了後、  
「もう一度寮生と一緒に食事をし  
たい」という思いを抱くようにな  
りました。そんな思いが現実とな  
ったのですが、実習生という立場で  
入っていた時とは違い、ただ寮生  
と楽しく関われば良いというわけ  
にもいかず、いろいろ頭を悩ませ、  
時間に追われる毎日ですが、あせ  
らず、マイペースで、寮生と楽し  
い日々を送りたいと思っています。

今年春、短大を卒業し、念願  
の施設保母としてお世話になるこ  
とになりました、中嶋純子です。  
私が施設で働きたいなあと思っ  
たのは、うちのおばあちゃんが体  
が動けなくなり、母が世話をして  
いるのを見ていて、自分もおじい  
ちゃん、おばあちゃん、子どもた  
ちの世話をしたいと思ったからで  
す。



## 体力勝負

B棟 川端 大地



私は、将来は何か資格を取って、いずれはインストラクターになればと思い、スポーツの専門学校に通っていたので、福祉関係には全然興味がありませんでした。でも、第2びわこ学園でアルバイトをしたことよって、考え方が変わり、大変興味をもつようになりました。けれど、今までは全く違った関係で、福祉のことはあまりわからないので、これからやっていけるのか不安ですが、体力には多少は自信があるので、今までの経験を生かせればと思っています。また、スポーツも自分の趣味として、これからも続けていきたいと思っています。

## 杉山の家担当の新任職員です

## 杉山での生活

岩内 大



杉山での生活を始めて一カ月が経ちました。都心での生活が長かったので多少の不安がありました。共に生活していくメンバーの笑顔、一生懸命仕事をしている顔、感情の表現の仕方を見て、私自身が考えさせられたり、興味をもつ事、又メンバーに迷惑をかけた教わる事もしばしばありました。

ここで生活していくメンバーがハンディーをできるだけ克服し、自分のことはできるだけ自分でできるように援助して行き、日常生活での自立ができることを目標としたいと思います。

これからも色々な失敗や御迷惑をおかけするのではないかと思いますが、よろしくお願いします。

## 共に生きる

崎元 幸和美



短大を出ての赴任地が、市街地から離れた、山合いの地でした。こんな所で何が出来ののだろうか不安で一杯だった私の心に安らぎを与えてくれたのは、ハンディを持った人達の生きざまでした。

自分を隠すことなく、伸び伸びと精一杯に生きている姿。これこそ、私が求めていた生きざまではないかと、気づかされたのでした。自然と一体となつての成長。互いの個性を尊重しあい、支えあう生活。その中で、喜びも悲しみも分かちあい、共に生きていきたいと思っています。

山あり谷ありの生活だと思えますが、自分らしさを精一杯発揮していきたいです。

## 同じ仲間として

岩田 瑞穂



杉山での生活は、まだ始まったばかりで、戸惑いの中で毎日過ぎていくような感じがします。わからないことだらけで不安もありますが、一緒に暮らしている仲間の笑顔が私を救ってくれます。あの笑顔を見るたびに、もっと心と心が通じ合えるようになりたいと思います。それには、私自身が飾らさずぶつかっていかねばと思っています。

「自立」を考えるなら、追いつけや無理強いをせず、お互いを尊重し合っていくべきであると思えます。援助者として、まず自分が自立をし、共に成長し合っていきたいです。そして、焦らず、ゆっくりやっていこうと思っています。



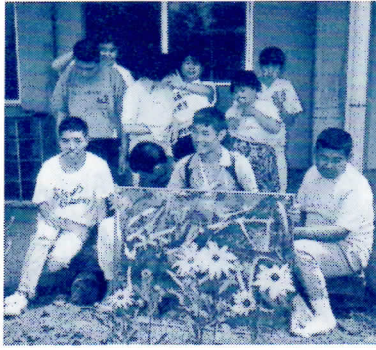
堂々

# 梅組絵画作品展

石部町立図書館

去る3月1日から27日まで、石部町の図書館で、日課班の梅組が取り組んでいる「フィンガーペイント」の作品を展示させていただきました。

フィンガーペイントとは、フィンガー(指)でペイント(描く)した絵画「指絵」などと呼ばれる絵のことです。梅組がフィンガーペイントを始めて、もう6年にもなります。



ほくたちの作品です

梅組のメンバーは、能力的に多くのハンディキャップを持っていて、人がほとんどで、なかなか造形的な活動に取り組めないでいます。

た。そんなとき、フィンガーペイントを知ったのです。クレパスも絵筆も持たない彼らですが、紙に絵具を落とすと、「待ってました」とばかりに両手で紙いっぱいひらげてくれます。でも、彼らはきまぐれで、すぐに飽きてやめてしまいます。一枚の絵を仕上げるのに、半年も1年もかかってしまいます。その間に色は重なり合い、混じり合っていくのです。

絵の善し悪しは見てくださる方にお任せして、その一枚一枚の絵には、彼らの怒りや喜びや悲しみがいっぱい詰まっているように見えます。言葉を持たない彼らが、紙の上に精いっぱい自分を表しているように感じられます。少しでも何かを感じてもらえれば、また、このような活動を知ってもらえれば、今回の展示は大成功だと思えます。

石部図書館の皆さん、いろいろご指導いただいた皆さん、ありがとうございました。(佐藤三博)

## 新天地で がんばれ

今年度4月に守山市に成人施設「蛭の里」が開設され、落穂寮からも8名の仲間が入所しました。

B棟から野々村正也君、石原直樹君、C棟から石原鏡子さん、藤田博子さん、小笠原順子さん、田中真起子さん、福原真由子さん。そして杉山の家で頑張っていた永尾みよ子さんです。他にも、穴山秋男君が「しいのきホーム」の所属となり、アヤハディオの配送センターに働きに行っています。また長らくB棟で生活をしてきた西高弘君は自宅から守山の授産施設



藤田博子さんとお別れ

「あじさい園」に通うことになりました。それぞ

「小さいことからコツコツと、ひとつひとつ取り組んでいきたいと思えます」とは、ある政治家の言葉でした。遠い将来を見据えながら、一步一步確実に、今、何をすべきかを考えて歩く。わかっている、なかなか難しいことです。寮生さんと向かい合っていると、きに、我に返ると、何を焦っているの?と自分に問いかけなければならぬときがたびたびあります。窓の外に目をそらし、空を散歩する雲を見て、ちよつとひと息。のんびりやろうよ。誰かがそつと囁いたような気がします。さあ、がんばろう。

▽機関紙『おちほ』第19号をお届けします。編集委員も代わり、張り切って再スタート。約2年ぶりの発行になります。

今回も、もう少し早い時期に発行するつもりでしたが、編集に時間がかかってしまいました。長い助走期間を経て、これからは、ホップ、ステップ、ジャンプと、定期的に発行していきたいと思えます。次号は、暑い夏を乗り切り、秋にお目にかかると思います。

# 泉